



学校だより



小川小学校 ○ 考える子 ○ 優しい子 ○ 元気な子 令和2年4月30日 No.3

《今は我慢するとき「STAY HOME」に努めましょう！》

保護者の皆様におかれましては、先の見えない今の現状に、自らのことだけでなく、お子様のこと、ご家庭のことなど、心配の尽きない毎日と思えます。緊急事態宣言が発出され、人々が外出を控えるようになりました。その効果が少しずつあらわれており、6月1日に学校が再開できることを祈っているところです。

なお、パソコンやスマートフォンで学べる、ラインズeライブラリを使用することができるようになりました。休校中のお子様の学習に、配付した課題とあわせてご利用くださるようお願いいたします。

《「さすが小川小学校の最高学年」》

4月8日の入学式で、6年2組の さんが在校生の代表として、1年生に向けてビデオメッセージを贈りました。内容を紹介します。

1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。今日から小川小学校の仲間ですね。ここで小川小学校の紹介をします。まず行事です。運動会、のびっ子祭り、遠足などたくさんの行事があります。毎日の授業も先生方がよく教えてくれるので楽しいです。友たちと一緒に目標に向かって勉強し、行事も協力して取り組むと（友だちと）もって仲よくなれます。そして、学校全体であいさつ・そうじも頑張っています。ぼくたち6年生もみんなのお手本となれるように頑張ります。わからないことや不安なことがあったらいつでも聞いてください。学校は楽しいです。早く学校に慣れて、一緒に思い出を作っていきましょう。今日からよろしくお願ひします。

6年2組

また、4月8日の始業式には、6年2組の さんが在校生の代表で全校児童の前でお話しすることになっていました。放送で始業式を行う予定でしたが実施できませんでした。そこで話す内容も紹介させていただきます。

私は、今年最高学年として頑張りたいことが3つあります。
1つめは、勉強です。6年生は、小学校のまとめなので、中学校に行っても困らないように苦手な教科も一生懸命勉強して、できるようにしたいです。
2つめは、クラブや委員会です。6年生がリーダーになるので、自分から積極的に動き、みんなのお手本になれるように頑張りたいです。
3つめは、運動会です。私は最後の運動会になるので、係や仕事、応援に精一杯取り組み、最高の演技を見せられるようにしたいです。
この3つの目標が達成できるように頑張りと、今までできなかったことにもたくさん挑戦していきたいと思います。最高の1年になるように楽しく学校生活を送りたいです。

6年2組

担任の先生が家庭に電話します。

5月13日から5月29日の平日、学年ごとに曜日を決めて、担任の先生が家庭に電話連絡をいたします。詳しい内容は、5月11日に配付する手紙をご覧ください。担任の先生方は、児童の皆さんとお話できることをとても楽しみにしています。

〈地域との連携〉

学校運営協議会委員のご紹介

今年度の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）委員の皆様をご紹介します。

・ 様 ・ 様 ・ 様
・ 様 ・ 様

※学校運営協議会とは、学校と地域が目標を共有し、一体となって子供たちをはぐくむ「地域とともにある学校づくり」を推進していく仕組みです。

スクール・ガードリーダーのご紹介

スクール・ガードリーダーは、通学路の安全パトロール、登下校指導、防犯教室等の実施補助など子供を見守る活動をボランティアで実施しています

令和2年度のスクール・ガードリーダーは、 様です。
どうぞよろしく願いいたします。

PTA 役員さんが決定！

本来ですと授業参観後の懇談会で役員が選出されます。しかし、役員選出ができない中で、PTA 本部の皆さんが大変苦労され、今年度の役員さんの選考にあたりました。夜遅くまで会議室で話し合いをする姿は「子供たちのために力になりたい」という思いが伝わってきました。役員の皆様ありがとうございました。

そして今年度、各学年から選出された役員さん、子供たちのために力を合わせていきましょう。どうぞよろしく願いいたします。

「見守る」ということ……子どもの自立へ向けて

落語家で、今は亡き先代・三遊亭円楽師匠のお話を聞いたことがあります。特に記憶に残る一部をご紹介します。

『父親と目の不自由なその息子が、湖で釣り糸を垂れています。そのうち、息子の竿にあたりがきました。かなりの大物のようです。「頑張れ！糸を巻けっ！」今にも転覆しそうなボートを支えながら、懸命に応援する父親がありました。どうして竿をとって釣り上げてやらないのかと思いました。様子を見ていた私（円楽師匠）は父親に腹立たしい思いがありました。そして、どのくらい時間がたったのか、ようやく魚があがってきました。息子は力を振り絞り、ついにその魚を釣り上げました。息子が、「やったよ 父さん。ぼくにも釣れたよ。」と大声で叫びました。父親は、「おうおう、確かにおまえが自分の力で釣った魚だよ。」と言ってぼろぼろ涙を流しながら息子を抱きしめました。「そうだったのか」と私（円楽師匠）もぼろぼろ泣きました。』

どんなに手をさしのべてやりたかったでしょう。でも父親は、ぐっと我慢して見守っていました。心配で、つらい選択だったと思います。子どものために何が大切なのかの本質を極めていきます。手を離し、「見守る」ことだって立派な支援なのです。

お子様が家庭にいることが多く、お子様の行動に手を出してしまいそうとき、この話を思い出していただければ幸いです。